



“おたけ” PRキャラクター
コイちゃん

CONTENTS

- 03 カメラスケッチ
- 04 らんらんカレッジサマースクール
- 06 いっしょに考えよう
- 08 インフルエンザの予防接種を受けましょう
- 09 B型肝炎ワクチンの定期予防接種が始まりました／10月は乳がん月間です
- 10 総合介護予防教室事業
- 11 ノルディックウォーキング体験講習会／かんたん！健康・料理教室
- 12 大竹ふれあい 健康・福祉まつり
- 13 平成28年度臨時福祉給付金、障害・遺族年金受給者向け給付金（年金生活者等支援臨時福祉給付金）
- 14 第十回特別弔慰金／数値でみる本市の環境
- 15 きれいな水環境を守りましょう
- 16 学校へ行こう週間／就学時健康診断
- 17 給食センターへ行こう
- 18 いろいろな相談ができます
- 19 おおたけに居を構えて 住まいるのあるあなたの暮らし
- 20 総合体育館を無料開放します／かけっこキャラバン
- 21 マロンの里 秋まつり／市文化祭開催
- 22 恵川橋全面通行止めのお知らせ／みんな考えよう公共交通
- 24 魅力いっぱいおおたけ自慢／ケーブルテレビを楽しもう
- 25 消費者シリーズ／年金のはなし／福祉のとびら
- 26 生涯学習講座／勤労青少年ホーム
- 28 としょかんだより
- 29 情報ステーション
健康／福祉／募集／お知らせアラカルト／先取り情報ステーション
- 35 10月～11月（上旬）のお知らせ
- 36 はじめまして／国際料理教室

小方地区の避難場所について

問い合わせ 総務課 ☎2119

小方公民館の廃止に伴い、体育館の解体と研修室を改修するため、10月から当分の間、災害時の避難場所として利用できなくなります。

この間は、自主避難などのときは市役所や総合市民会館を、大きな災害のときは小方小・中学校などを利用していただきますので、ご了承ください。

第28回 ウォンツ旗 瀬戸内少年野球大会 準優勝 大竹バッファローズ

さかえ公園を練習拠点に活動する少年軟式野球クラブ「大竹バッファローズ」が、第28回ウォンツ旗瀬戸内少年野球大会に出場。キャプテンの安野愛さん（大竹小6年生）をはじめとする6年生、5年生メンバーを中心に、チーム一丸となって戦い、見事準優勝の成績を収めました。

大会は、7月24日から8月26日にかけて開催され、中国・四国地方から64チームが出場しました。



（上）表彰を受け、下級生たちと一緒に笑顔を見せる準優勝メンバー。（後列左から安野愛、竹次叶多、福本正虎、安野元気、小玉瑞貴、山田龍之介、伊東蒼真、後列右から齊藤倬純、山田龍 敬称略）

監督の伊東一利さんにお話を伺いました

大竹バッファローズは守りのチームで、今大会でも決勝進出までの5試合でわずか1失点に抑えた守備力が強みとのこと。

クラブのモットーは「礼儀正しく」「しっかり挨拶」。また、子どもたちの自主性を大切にしており、練習内容を自分たちで相談して決めることもあるそうです。

子どもたちには、野球を通じて、チームプレーに大切な、思いやりの心を持った人間に育って欲しいと話してくれた伊東さん。今年で創立42年となるクラブがこれからも長く続くよう、より多くの子どもたちが入部してくれたらと願っているそうです。

※ 体験入部や練習見学の間い合わせは、クラブ代表（古木☎080-6306-8405）へ。



8月18～24日

未来を拓く第一歩

市役所ほか

市内の事業所を中学生が訪問し、5日間の職場体験を通して仕事の大切さや大変さを学び、自分の将来を考えてもらう「キャリア・スタート・ウィーク」。今年は8月18日から24日まで行われ、市内各所で仕事に取り組み中学生たちの姿が見られた。市役所で職場体験をした、宇田朱里さん（小方中2年生）と大熊郁くん（同）。初めての体験に少し戸惑いながらも、さまざまな仕事に熱心に取り組み、充実したキャリア・スタート・ウィークになったようだ。

（上）市役所で行われた「やさしい日本語」講習会では受付を担当。司会も体験し、大勢の参加者の前でしっかりと進行を務めた。

（下）議会事務局で議会中継用カメラの操作体験。議場も見学し、議会運営の雰囲気を感じた。



（上）市広報の取材体験。保育所で職場体験をしている生徒のインタビューと写真撮影を行い、記事を作成した。（2人が取材・作成した記事は下部参照）

僕が 私が

取材しました

なかはま保育所

なかはま保育所で職場体験をした、数本佳那子さん（玖波中2年生）と山中沙織さん（同）。ともに将来の夢が保育士という2人は、子どもたちと遊んだり着替えを手伝うなど、積極的に仕事に取り組んでいた。

「夢を叶えるために職場体験では実際に保育所に行ってみたかった。子どもたちと同じ目線になるよう、話すときはひざ立ちになることを心がけました」（数本さん）、「子どもたちと同じ目線で、笑顔で優しく接することに気がつけました。プール遊びでは水がかかって大変でしたが、子どもたちがすぐに慣れてくれて嬉しかったです」（山中さん）と語る2人は、子どもたちと笑顔で触れ合っていた。



（上）プール遊びで子どもたちと触れ合い、自然と笑顔がこぼれる山中さん。



（上）子どもたちの着替えを手伝う数本さん。

（右）朝のあいさつでは、明るく自己紹介をした。

